

Arche21

鹿児島県立沖永良部高等学校 【進路通信】

夢中で日を過ごしておれば

いつかはわかる時が来る。

坂本龍馬（江戸末期の志士）

AO 入試とは？

AO（アドミッションオフィス）入試は、学力試験だけでは判定できない、その学部・学科に対する受験生の適性、入学後の可能性などをみる入試です。選考基準となるのは、大学・短大または学部・学科が提示する「アドミッションポリシー（入学者受け入れ方針）」に基づいた「求める学生像」です。

「絶対この大学で学びたい」という熱意が届いて、学力選考では諦めざるをえないレベルの大学に入学が許可されたり、能力や適性に合った大学が選べるなど、メリットはたくさんあります。ただし、「学力を問わないから」「早く決めたいから」という安易な理由でこの方式を選んでしまうと、進学後の授業についていけなかったり、学びたいことがなかったといったケースもあります。将来まで見据えた計画を立てて入試に望むことが必要です。今回は、AO 入試で合格した先輩方の体験談を紹介します。



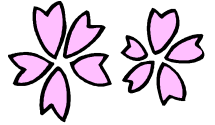
☆関西福祉科学大学 保健医療学部

リハビリテーション学科（理学療法）合格☆

AO 入試の受験内容は、小論文と面接でした。私は、小論文が苦手、納得できる文を書くことができませんでした。それでも毎日書き続けることで徐々にコツをつかんで自信をつけていきました。私が入試に向けて一番気をつけたことは時間の使い方でした。常に、「今、やらなければならないこと」を優先的にやり、無駄な時間をなくしていきました。そうすることで、より集中して取り組むことができ、それが合格に繋がったと思います。

入試は自分だけの力では乗り越えられません。もちろん、自分は最大限の努力をしますが、先生方にも協力していただき、同じ方向を向くことが大切です。苦手だと思うことや、やりたくないことから逃げていては受験には勝てません。

「最後までモチベーションを保ち、自分の力を信じて頑張ってください！！」



☆長崎大学 教育学部 教員養成課程

小学校教育コース 合格☆

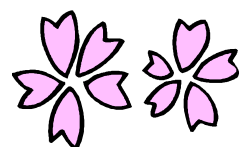
私は高3になるまで将来の夢が決まらず、それでも大学で勉強したい気持ちが強かったので、先生に相談してみました。先生にたくさん話を聞いてもらう中で自分の中の「英語の勉強を続けたい」「子どもと関わりたい」という気持ちに気づき、先生の薦めもあって AO 入試のチャレンジを決めました。

一次試験の志望理由書とレポートの作成は夏休み前から準備を始めたのですが、どちらも全く書けず、自分の国語力のなさに驚きました。でも、絶対妥協したくなかったので、ギリギリまで必死で修正を加えました。

二次試験では自己表現と面接と課題文でした。自己表現は何をどんな形で表現したいのか悩み、面接練習も、自分の意見がまとまらず、考え込んでばかり。前に進むことができなくて、正直、毎日逃げたい気持ちとの戦いでした。でも自分で決めたことだし、先生方がこんなに一生懸命私をサポートしてくれているのだから、自分ももっと頑張らなきゃ！もっとできるはずだ！言われたことができないのは嫌だ！…毎日とにかく必死でした。

合格して改めて思うのは、自分一人では決して合格できなかったらうということです。自分と一緒に本気になってくれる先生方と出会えて本当に良かったです。

私は受験を通して、「本気になること」と「時間の大切さ」を学びました。長い間、部活以外で本気になることがなく、本気を失ってしまっていた私は、本気になるまで時間がかかりました。皆さんにはいろんな事にチャレンジして、本気で取り組んで、いざという時にも本気が出し切れるような高校生活を過ごして欲しいです。そして時間はあったらあっただけのことのできるの、早くから準備をすることをすすめたいと思います。



☆麻生リハビリテーション大学校

理学療法学科 合格☆

私のAO入試の試験内容は、面接・基礎学カテスト(国数英理)でした。基礎学カテストの勉強も大変でしたが、自分自身を一番アピールできるのは面接だと思ったので、面接の練習を中心に頑張りました。私は誰よりも緊張するタイプで、面接の独特の雰囲気かとてつもなく嫌だったので早くから準備して対策をしなくては…と考えていました。AO入試は試験日が早く、本番まで時間もなかったので、1日に最低でも2人の先生方をお願いして面接練習を受けに行っていました。前日にできなかった事を今日は改善してく…それを繰り返す事で少しずつ上手に受け答えができるようになりました。

ところが、少しできるようになったという油断もあってオープンキャンパスの為に丸6日間と、提出書類の準備3日間、合わせて9日間まったく面接練習をしない日々を送ってしまいました。面接練習を再開した10日目、驚くほど全然できなくなっていました。振り出しに戻ったかのようでした。自分一人で鏡を見て練習したり、親と練習したり、方法はあったはず…。どんな事情があっても、面接練習は続けるべきだったと反省しました。

幸い合格することができましたが、私は受験を通して、「継続することが大事だ」と痛感しました。面接でも小論文でも、勉強でも部活でも、練習期間に間をあけてはダメだと思います。

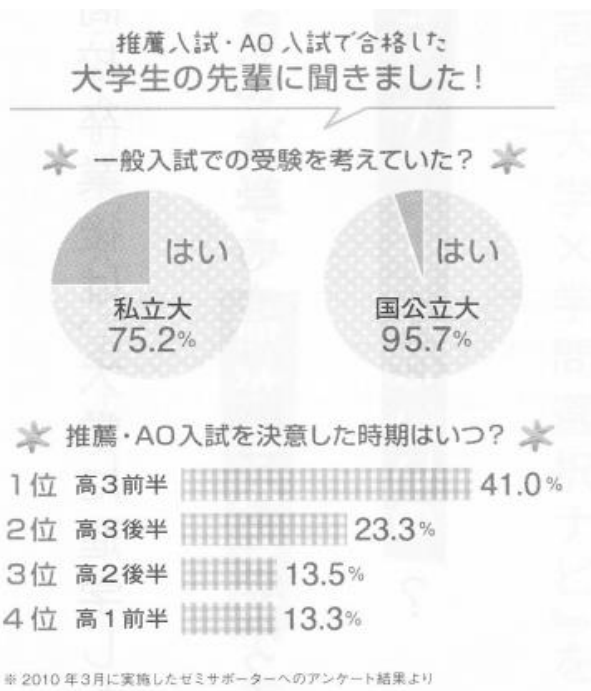
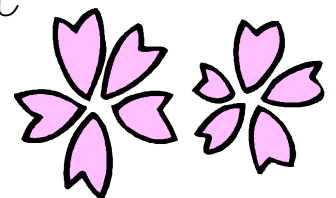
☆摂南大学 外国語学部

外国語学科 合格☆

私の試験内容は、書類選考・小論文・面接・プレゼンテーションでした。書類選考では(志望理由や高校時代打ち込んだこと・大学で学んだこと・自己PR)などがありました。私が準備をする上で大変だと感じたことは、小論文とプレゼンテーションでした。小論文は8月の中旬から約一ヶ月、先生に指導をしていただきました。また、プレゼンテーションは、一次選考の結果が出てから内容を考えて、PowerPointを作成し、発表練習をしたため、すべての準備がつつめになってしまいました。

私は、去年卒業した先輩方から「受験対策は早めに取りかかった方が良い」と言われていましたが、実感がわかず、取りかかりが遅くなってしまい、後悔しました。

進学や就職をする際、試験内容はそれぞれ異なり、中には自分が苦手な内容が選考で課される場合もあります。今回の受験を通して、練習をたくさんすることが大事だと改めて感じました。繰り返し練習をするためにも、早めに対策をとり、準備に取り掛かることが大切です。3年生になってから…と思わず、今のうちからできることをしっかりしておきましょう。



推薦・AO一本には 絞らない!

一般入試での受験も視野に入れることが大切!

推薦・AO入試は一般入試よりも早いスケジュールで行われる。ただ、推薦・AO入試の勉強にばかり集中するのはNG。推薦・AO入試が不合格の場合、一般入試と同じ大学・学部にも再挑戦するために、一般入試の対策も行う必要がある。左のグラフを見ても、推薦・AO入試で合格した先輩の多くが、一般入試での受験も考えていたことがわかるだろう。